

グリーン・ツーリズム湧水（湧水町）

概要

本事業に関しては、平成 29 年度から取組を開始し、本年が 2 年目である。前年度は主に湧水町の魅力への理解を深めてもらうために、モニターツアーを開催、取り組み過程の情報発信も重視し、国際大学の学生、地域おこし協力隊などにも参加を呼びかけ、ツアーの行程内で参加者によるワークショップも行い、改善点など多くの気づきを得た。一番の発見は「自らが「湧水町を知らないことを知る」ことの大切さ」と、会長の上水流さん。自分たちが湧水町を好きになることが交流の機会の増加につながるのではと改めて感じている。

そもそも協議会発足のきっかけは、教育旅行受入を通じて過疎高齢化している地域の交流人口を増やしたいという思いからである。また町内の宿泊施設が充実していない状況であったため、農家民宿も立ち上げている（平成 30 年度現在 4 軒）。協議会事務局は民間であり、基幹事業であった修学旅行受入が 1 クラス受入程度の受入家庭数で伸び悩んでいること、受入自体も事業開始時と比較すると半減していることもあり、慢性的な資金不足が悩みである。

発信能力の向上を目指して

情報発信の強化に注力した今年度は、(1) グリーン・ツーリズム事業チラシの作成と配付、(2) グリーン・ツーリズム事業の町広報誌への掲載、(3) アートの森マルシェ会場でのグリーン・ツーリズム事業についての広報、(4) 湧水町 PR のための既存のリーフレットと HP の刷新を行った。

(1) と (3) は連動して実施し、集客機会を逃さずに配布することで PR に手ごたえがあった。4 軒の農家民宿の稼働率も芳しいとはいえないため、対面での PR 機会は効果を感じた。(4) については、昨年度のワークショップでの意見なども反映し、小型で手に取りやすく、HP や Facebook に誘導しやすい内容を心がけた。また HP は五カ国語対応とすることで、今後増加が期待される外国人旅行者にも湧水町の情報が届くきっかけになればと考えている。

今後の展開

今年度の協議会会員 6 名による先進地研修でも刺激を受けた。熊本県美里町でのフットパスの研修では、何気ない里道がとても魅力あるものになることを教えられた。湧水町内でもこうした魅力を伝えられたらいいなと感じている。また、同じく熊本県あさぎり町での研修では持ち寄った食材での調理を通じて、知らない人同士でも一緒に作業をすることで、場への溶け込みが早まる様子を実感した。今後の取り組みの中でも、食の学びなおしをし、泊食分離も検討してはと考えている。



ここがキラリ☆ 湧水町の取組

鹿児島県内では珍しい民間事務局の協議会の大変さもありながら、「グリーン・ツーリズムは生きがいがづくりだけではだめ。収益があがらないといけない」という会員一丸となったチーム力を感じるグリーン・ツーリズム湧水さんです。